

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和5年10月5日14時00分
近畿地方整備局



GOOD DESIGN AWARD
2023年度受賞

2023年度グッドデザイン賞 淀川河川事務所で2年連続受賞※ ～「史跡」及び「名勝」嵐山における左岸溢水対策～

桂川嵐山地区では、洪水による浸水被害を軽減するため、令和元年度から3年度にかけて「左岸溢水対策（可動式止水壁）」を整備しました。

当地区は、史跡・名勝かつ日本を代表する観光地であることから、学識経験者や地元の方々などに御意見を伺いながら、史跡・名勝への影響を極力抑制した河川整備を行いました。

今般、嵐山における景観価値保全と治水機能向上の両立が高く評価され、2023年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。

※近畿地方整備局（淀川河川事務所）が事業主体の河川整備事業において2年連続で受賞

■グッドデザイン賞ウェブサイト

<https://www.g-mark.org/>

■桂川嵐山地区河川整備に関する取組

<https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/activity/comit/arashiyama-workshop/index.html>

（嵐山左岸溢水対策完成までのあゆみ）※動画約6分

<https://youtu.be/mw2Iwn5lYmY>

受賞結果は
コチラ→



左岸溢水対策の
概要は
コチラ→



<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、
京都府政記者クラブ、京都市政記者クラブ

<問合せ先>

近畿地方整備局 淀川河川事務所 副所長

流域治水課長

電話番号（072）843-2861（代表）

いとう まさし
伊藤 昌資
ありもと こうたろう
有本 浩太郎

2023年度グッドデザイン賞 淀川河川事務所で2年連続受賞※

～ 「史跡」及び「名勝」嵐山における左岸溢水対策 ～

※近畿地方整備局（淀川河川事務所）が事業主体の河川整備事業において2年連続で受賞



■受賞概要等

受賞対象名 : 河川整備[「史跡」及び「名勝」嵐山における左岸溢水対策]
事業主体名 : 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
分類 : ランドスケープ、土木・構造物
受賞企業 : 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
受賞番号 : 23G151230
概要 : 桂川嵐山地区は、治水安全度が低く、特に渡月橋上流左岸の道路高は計画高水位を下回っており、近年毎年のように浸水被害が発生している。

一方、同地区は文化財保護法上の「史跡」及び「名勝」に指定されており、四季折々の美しい景観を有する日本を代表する観光地であるため、「史跡・名勝」嵐山の価値を減じない治水対策を実施した。

プロデューサー : 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
ディレクター : 桂川嵐山地区河川整備検討委員会
デザイナー : 株式会社建設技術研究所 宗行正則
株式会社東京建設コンサルタント 伊東和彦

場所 : 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町（渡月橋上流左岸側）
審査委員の評価 : 温暖化による気候変動は、かつてない自然災害を国内各所にもたらしており、急峻な山や急流な川を抱える景勝地ではその対策が急務である。その象徴ともいえる嵐山の治水対策においては、国土交通省が事業主体となり、学識者で構成される河川整備検討委員会からの助言、地元関係者との対話、京都府・京都市との行政三者会議での議論を踏まえて案の検討が進められた。導きだされた答えは、嵐山における景観価値の保全と治水機能の向上を両立する可動式止水壁の採用であった。地域の声に寄り添い続けた事業者の覚悟と、優れた技術力で地域の価値を更に高めた設計者の努力に最大の賛辞を贈りたい。



「嵐山左岸溢水対策」完成までの歩み

「史跡及び名勝」に指定されている桂川嵐山地区では、学識経験者や地元の皆様からご意見をいただきながら、国・京都府・京都市が連携し、景観や利用に配慮した治水対策を検討し、3つの治水対策*を行うこととなりました。そのうち「可動式止水壁による左岸溢水対策」が令和4年3月に完成を迎えました。

*「可動式止水壁による左岸溢水対策」、「一の井堰改築」、「堰改築を含む派川改修」の3つ



1 堤防形式(固定式止水壁から可動式止水壁へ)

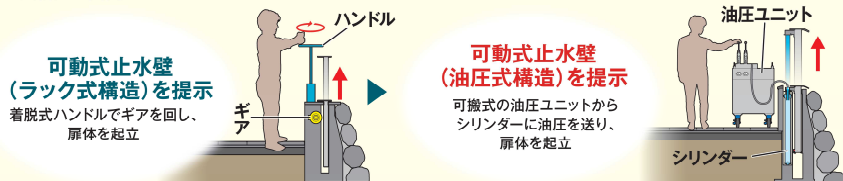
当初は、早期に着手可能な「計画高水位までの道路のかさ上げ+固定式止水壁」案を提示しましたが、眺望を阻害する恐れがあり、地元の皆様から「必要な時に現れることで景観を損ねないようにできないか」「景観に溶け込むような構造はないか」等の意見が出され、可動式止水壁の検討に着手しました。



計画高水位までの道路かさ上げ+固定式止水壁イメージ

2 構造形式(ラック式構造から油圧式構造へ)

可動式止水壁の起立構造について、当初はラック式構造を検討しましたが、実物大模型で操作性を検証したところ、洪水時のギア部への砂の侵入や経年的な部品の劣化等による操作性の低下等が判明しました。そこで、操作リスクを軽減するために油圧式構造に変更しました。



3 意匠

「川・波月橋・山を望む視点場として、それらが主役となるように自己主張を抑えること」「歴史的な雰囲気や周辺施設との調和を図ることをデザインコンセプトとして意匠を検討しました。

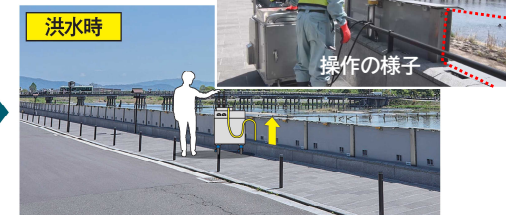
<p>川側 「史跡及び名勝」指定当時の石積みの姿を参考に、石材の選定や石の積み方を検討しました。</p>	<p>歩道側 周辺施設との調和や堤防と歩道に一体感が感じられる材料について、現地での実物サンプル配置等を通じて学識経験者や地元と意見交換を行いながら選定しました。</p>
---	--

令和4年3月完成



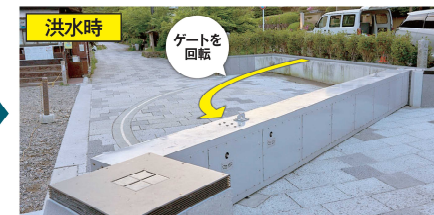
1 可動式止水壁

可搬式の油圧ユニットからシリンダーに油圧を送り、扉体を起立します。



2 スイングゲート

スイングゲートを回転させて閉め切ります。



平成16年台風23号洪水と同規模の洪水が川から溢れなくなりました。